

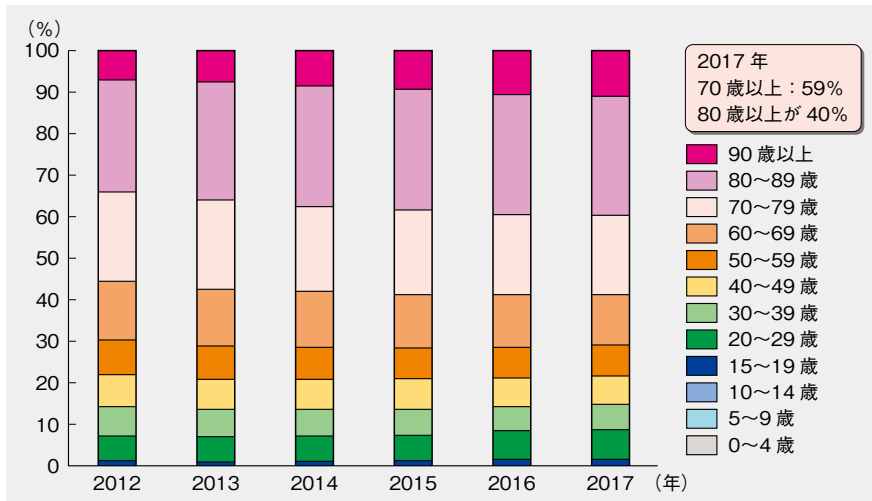
① 日本の結核新登録患者数の推移

結核統計開始 1951年 590,662 (罹患率 約700/10万)

② 諸外国と日本の結核罹患率：日本は結核中蔓延国

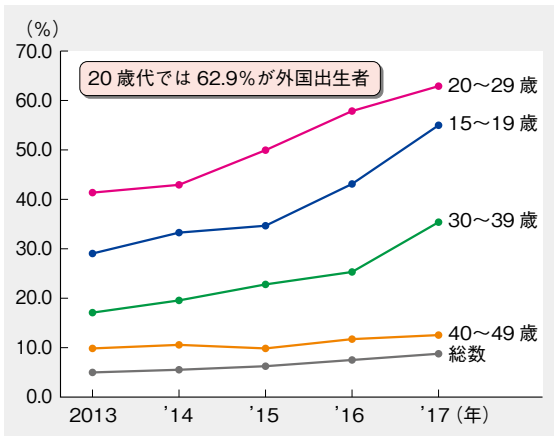
国名	罹患率	年次
米国	2.7	2016
カナダ	4.8	2016
デンマーク	5.1	2016
オランダ	5.2	2016
オーストラリア	5.7	2016
イタリア	6.4	2016
ドイツ	7.0	2016
スウェーデン	7.1	2016
フランス	7.2	2016
英国	8.8	2016
日本	13.3	2017
シンガポール	44	2016
中国	55	2016
韓国	72	2016
タイ	102	2016
ベトナム	108	2016
インドネシア	137	2016
フィリピン	322	2016

罹患率：人口10万人対新登録結核患者数。



③ 結核新登録患者の年齢分布

高齢者が多くを占める。



④ 結核新登録患者における外国出生者の占める割合

若年者では外国出生者が多い。

(結核予防会結核研究所疫学情報センター

<http://www.jata.or.jp/rit/ekigaku/>)

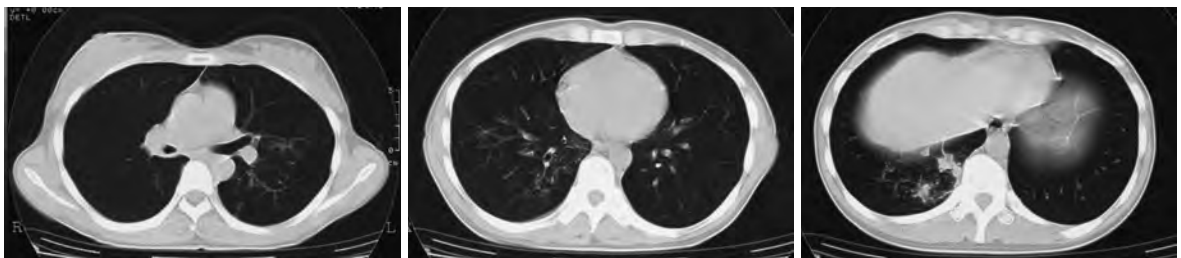
気管支結核	→喘息
喉頭結核	→耳鼻科で喉頭腫瘍
乾酪性肺炎	→細菌性肺炎
高齢者の肺結核	→誤嚥性肺炎
他の肺外結核：その臓器特有の他疾患と診断されることがある	
脊椎カリエス	：骨粗鬆症, 脊椎炎
腸結核	：腸炎, Crohn病, 腫瘍
関節結核	：関節炎
脳結核	：脳腫瘍
女性性器結核	：卵巣・子宮体腫瘍
頸部リンパ節結核	：転移性腫瘍

結核菌は全身のあらゆる臓器に結核症を起こしうる

⑤ ほかの疾患と間違われ、診断が遅れる可能性の高い結核



a. 入院時胸部 X 線所見



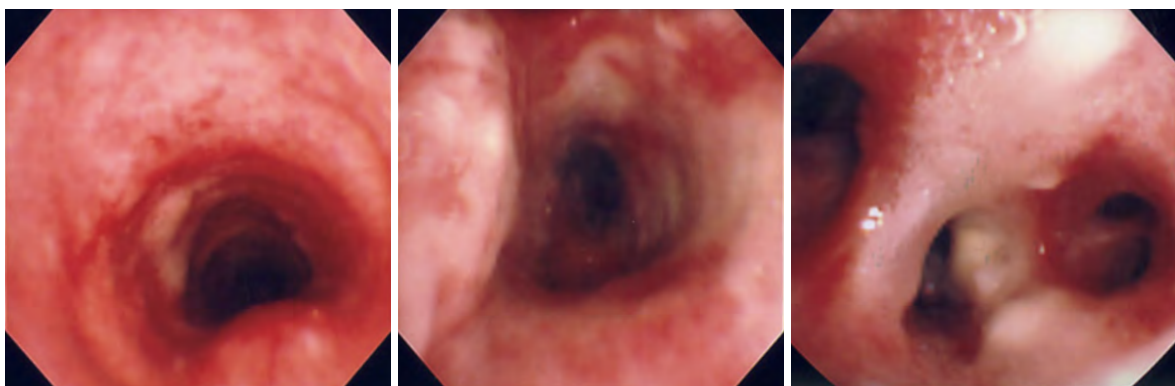
b. 入院時の CT 所見. 右主気管支がやや細い. 両肺に散布性粒状影, 右下葉に浸潤影を認める. 右下葉の陰影は胸部 X 線所見をよくみると横隔膜下にみえる.

⑥ 気管・気管支結核 (30 歳代, 女性)

主訴: 咳嗽, 喘鳴, 発熱. 喘息として近医で治療を受けていたが, 微熱が出現し, 喀痰の抗酸菌検査で G5 号と判明.

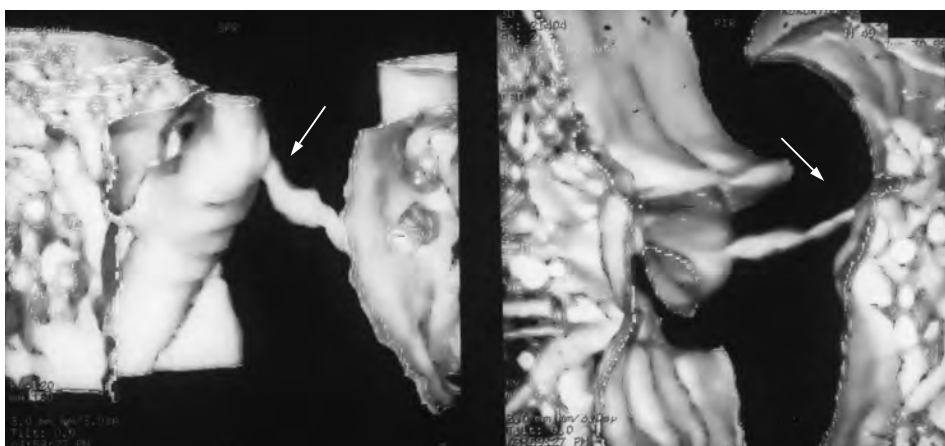
現症: 右前胸部を中心に wheeze を聴取.

症状発現から診断まで 4 か月を要した.



(気管) (右中間幹) (右下葉支)

c. 結核の治療2週間後の気管支鏡写真. 気管・気管支に白苔を伴う潰瘍性病変が多発している.



d. 結核の治療2週間後の3D-CT所見. 右主気管支はきわめて細い(矢印).

(永井英明)